

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

新				旧					
政策目標 I 芦屋の魅力を活かし、新しいひとの流れをつくる				政策目標 I 芦屋の魅力を活かし、新しいひとの流れをつくる					
基本目標		・観光入込客数:[平成30年]634,274人 ⇒ [令和6年]654,000人 ・助成事業による移住・定住者(累計):[平成30年度]161世帯 ⇒ [令和6年度]340世帯		基本目標		・観光入込客数:[平成26年]564,300人 ⇒ [平成31年]585,000人 ・移住・定住者:[平成26年度]12世帯 ⇒ [平成31年度]60世帯			
戦略1 シティプロモーション				戦略1 シティプロモーション					
概要・目的		町の魅力や旬な情報を集約し、ポータルサイトや、SNSなどを活用した効果的な情報発信を推進します。また、町を売り込むためのプロモーションの展開や、関係団体と連携したマスコミや旅行代理店へのプロモーションなど、様々なイベントの機会を活用した、積極的な町のセールス活動を行います。		概要・目的		町の魅力や旬な情報を集約し、積極的に発信するとともに、情報の収集や発信がワンストップでできる仕組みづくりを図ります。また、町を売り込むためのプロモーションの展開や、全町民による町のセールス活動を推進するとともに、関係団体と連携したマスコミや旅行代理店へのプロモーションなど、様々なイベントの機会を活用した、積極的な町のセールス活動を行います。			
芦屋流情報発信プロジェクト				芦屋流情報発信プロジェクト					
		KPI	基準値	目標値		KPI	基準値	目標値	
①	ポータルサイトや、SNSなどを活用した効果的な情報発信を推進します。 また、イメージキャラクター「アッシー」やロゴマーク、プロモーションツールを活用した、統一イメージでの町の情報発信を推進します。	プロモーションの件数(累計)	40件 (平成30年度)	90件	①	町の情報の収集発信を集約し、効果的にセールスを行う部署を創設します。 また、町の情報の収集や発信が1箇所で行える仕組みづくり(ポータルサイトなど)や、SNSなどを活用した効果的な情報発信を推進します。 さらに、イメージキャラクターやロゴマークを活用するとともに、プロモーションツールの製作を展開し、統一イメージでの町の情報発信を推進します。	プロモーションの件数(累計)	0件	32件
		KPI	基準値	目標値		KPI	基準値	目標値	
	削除				②	あしやファン倶楽部の創設			
					②	町外者を対象に「あしやファン倶楽部」を組織し、様々な情報を定期的に発信し、町の情報をファン倶楽部会員が発信する仕組みづくりを推進します。 ふるさと納税の魅力向上を図るとともに、町のプロモーションツールとして活用を推進します。 併せて、同窓会等の機会を利用した芦屋出身者への町のPRを依頼していきます。	あしやファン倶楽部会員数	0人	100人

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略2 芦屋流おもてなし				戦略2 芦屋流おもてなし						
概要・目的		町を訪れる人が気持ちよく、居心地がよいと感じられる取り組みが重要です。このために町民が芦屋の良さに気づき、日頃から誰でもいつでもどこでも芦屋の魅力を伝えられるとともに、おもてなしの機運づくりを推進していきます。		概要・目的		町を訪れる人が気持ちよく、居心地がよいと感じられる取り組みが重要です。このために町民が芦屋の良さに気づき、日頃から誰でもいつでもどこでも芦屋の魅力を伝えられるとともに、おもてなしの機運づくりを推進していきます。				
効果的な観光案内の推進		KPI	基準値	目標値	まちかど観光案内所の設置		KPI	基準値	目標値	
①	町内の事業所などに共通ののぼりや看板、ステッカーなどを掲出し、どこでも共通の情報発信やおもてなしができる「まちかど観光案内所」の設置を推進します。また、一定基準以上のおもてなしができるよう事業所向けの研修制度や、町民ボランティアによる観光ガイドの育成に取り組みます。 イベント告知や旬な情報発信などを行う看板などの整備・充実を図るとともに、スマホアプリによる観光案内や情報発信について調査研究し、導入にむけて取り組みます。	まちかど観光案内所数(累計)	75箇所(平成30年度)	85箇所	①	町内の事業所などに共通ののぼりや看板、ステッカーなどを掲出し、どこでも共通の情報発信やおもてなしができる「まちかど観光案内所」の設置を推進し、一定基準以上のおもてなしができるよう研修制度などの仕組みづくりを図ります。 イベント告知や旬な情報発信などを行う看板などの整備やサインの整備・充実を図るとともに、AR機能やQRコードの活用など、スマホアプリによる観光案内や情報発信について調査研究し、導入にむけて取り組みます。	まちかど観光案内所利用者数(累計)	0人	10,000人	
	①に統合	KPI	基準値	目標値	観光ガイドの育成		KPI	基準値	目標値	
					②	生涯学習講座あしや塾と連携し、町民ボランティアによる観光ガイドを育成することで、町民のシビックプライドの醸成を図るとともに、来町者へのおもてなしの心を醸成し、ツーリズム観光の推進を図ります。	観光ガイド利用件数(累計)	0件	72件	
町民むけ情報発信プロジェクト				KPI	基準値	目標値	町民むけ情報発信プロジェクト			
②	町民が町の魅力や旬な情報を知るために、SNSなどを活用し、情報共有できる仕組みづくりを図り、自ら情報発信していく機運づくりを推進します。また、町の魅力を知るための取り組みとして、体験プログラムなどの実施や、「おもてなし」をスローガンにした取り組みを推進します。	町民むけ情報発信件数(累計)	60件(令和元年度)	300件	③	町民が町の魅力や旬な情報を知るために、情報共有できる仕組みづくりを図り、自ら情報発信していく機運づくりを推進します。また、町の魅力を知るための取り組みとして、町民むけ観光体験プログラムなどの創出や、「おもてなし」をスローガンにした取り組みを推進します。	町民向け情報発信件数(累計)	0件	48件	
芦屋町ふるさと観光大使の推進				KPI	基準値	目標値	あしや観光大使の創設			
③	町の魅力を広く県内外に発信し、町の認知度及びイメージの向上を図るため、様々な分野で活躍している人を「芦屋町ふるさと観光大使」として任命し、町の観光情報等の発信によるプロモーション活動を推進します。	芦屋町ふるさと観光大使によるシティブロモーション件数(累計)	0件(平成30年度)	60件	④	「あしや検定」制度などにより一定条件をクリアした人を「あしや観光大使」として任命し、様々な機会での町のプロモーション活動を行う仕組みづくりを推進します。 また、町民一人ひとりが、多くの人に芦屋の良さを発信してもらう取り組みを推進します。	あしや観光大使数	0人	30人	

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

		KPI	基準値	目標値	Wi-Fiスポットの整備		KPI	基準値	目標値
削除					⑤	町内の公共施設や観光施設にフリーWi-Fiの整備を推進します。また、観光ゾーンや中心市街地を中心とした屋外への拡大も図ります。	Wi-Fiスポットの整備箇所数	0箇所	15箇所
戦略3 地域資源を活かした観光の魅力づくり					戦略3 地域資源を活かした観光の魅力づくり				
概要・目的		豊富な地域資源の新たな魅力づくりや付加価値の創出などにより、観光資源としての活用を推進します。また、観光施設の整備やイベントの魅力向上、滞留時間向上にむけた着地型観光を推進します。さらに、豊かな歴史・文化資源の魅力向上させるため、観光の視点から様々な施設や資源とのネットワーク化を推進します。			概要・目的		豊富な地域資源の新たな魅力づくりや付加価値の創出などにより、観光資源としての活用を推進します。また、観光施設の整備やイベントの魅力向上、滞留時間向上にむけた着地型観光を推進します。さらに、豊かな歴史・文化資源の魅力向上させるため、観光の視点から様々な施設や資源とのネットワーク化を推進します。		
海岸線や海を活かした魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値	海岸線や海を活かした魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値
①	海浜公園や夏井ヶ浜はまゆう公園の整備、洞山エリアの観光整備など、変化に富んだ海岸線を活かした魅力づくりを推進します。 また、ビーチサッカーやビーチバレーなど良質な砂を活かしたビーチスポーツ等が親しめる環境整備を進めます。 さらに、花火大会や砂像展など既存イベントの充実・魅力向上を図るとともに、町民や町内各事業者との連携強化を推進し、新たな観光資源の発掘に努めます。	観光入込客数	634,274人 (平成30年)	654,000人	①	海浜公園や夏井ヶ浜はまゆう公園の整備、洞山エリアの観光整備など、変化に富んだ海岸線を活かした魅力づくりを推進します。 また、ビーチサッカーやビーチバレーなど良質な砂を活かしたビーチスポーツ誘致を推進するとともに、マリンスポーツやマリンレジャーの誘致を図ります。	観光入込客数	564,300人 (平成26年)	585,000人 (平成31年)
歴史・文化資源魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値	歴史・文化資源魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値
②	町内外の人々に、町の豊かな歴史・文化をより知ってもらうために、歴史・文化資源の情報発信やネットワーク化、体験プログラムとの連携を推進します。 また、芦屋歴史の里の魅力向上のため、企画展や体験型講座などの充実を図ります。	芦屋歴史の里年間来場者数	3,836人 (平成30年度)	5,000人	②	歴史文化資源の情報発信やネットワーク化、まち歩きやニューツーリズム観光と連携した受入環境を整備します。 また、芦屋歴史の里の魅力向上のため、企画展や体験型講座などの充実を図ります。	芦屋歴史の里年間来場者数	4,200人	6,000人
着地型観光の推進		KPI	基準値	目標値	着地型観光の推進		KPI	基準値	目標値
③	既存の体験プログラムの充実及び外国人観光客向けの体験プログラムの推進を図ります。 また、町内を回遊できる仕組みとして、レンタサイクルの複数箇所への設置について検討します。	あしや体験隊プログラム実施件数(累計)	23件 (令和元年度)	93件	③	遠賀・中間広域連携プロジェクトによる体験型観光の推進と併せ、釣り体験や鋳物づくりなど芦屋独自の体験プログラムを創出します。 また、町内を回遊できる仕組みとして、レンタサイクルの複数箇所への設置について検討するとともに、神社仏閣めぐりやマニア向けなど、様々な町歩きツーリズムを推進します。	まち歩きツーリズム参加者数(累計)	0人	360人

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

	KPI	基準値	目標値	イベントの魅力アップ・創出プロジェクト	KPI	基準値	目標値
①に統合				④ 花火大会や砂像展など既存イベントの充実・魅力向上を図るとともに、町内各事業者や観光資源との連携強化・ネットワーク化を推進します。 また、町民が企画立案するイベントに対する助成として企画提案型イベント助成制度の創設や、ブランド化戦略のひとつとして食をテーマにした新規イベント開催など新たな魅力創出を推進します。	イベントへの年間来場者数	173,000人	178,000人
ボートレース芦屋との連携	KPI	基準値	目標値	ボートレース芦屋・航空自衛隊芦屋基地等との連携	KPI	基準値	目標値
④ ボートレース芦屋でのパブリックビューイングや映画上映、音楽イベントの開催、「ASHIMU CAFE(アシ夢カフェ)」や駐車場を活用したイベントの開催、バックヤードツアーなど体験型イベントの実施について検討を進めます。	連携事業による来場者数(累計)	30,895人 (平成30年度)	98,000人	⑤ ボートレース芦屋でのパブリックビューイングや映画上映、音楽イベントの開催、「ASHIMU CAFE(アシ夢カフェ)」や駐車場を活用したイベントの開催、バックヤードツアーなど体験型メニューの実施について検討を進めます。 航空自衛隊芦屋基地内の見学ツアーや、基地グッズの町内での販売など、芦屋基地と連携した観光資源としての活用について協議を進めます。	連携事業による来場者数(累計)	0人	1,200人
	KPI	基準値	目標値	地域おこし協力隊の導入	KPI	基準値	目標値
削除				⑥ 地域おこし協力隊を導入し、今ある魅力の向上やネットワーク化、町中の回遊性を高める仕組みづくり、新たな魅力発見と情報発信を推進します。 また、町内の人と人をつなぐネットワークづくりを推進します。	地域おこし協力隊員数(累計)	0人	3人

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略4 オンリーワンの芦屋釜を活かした魅力づくり				戦略4 オンリーワンの芦屋釜を活かした魅力づくり					
概要・目的				概要・目的					
<p>オンリーワンとしての芦屋釜の魅力や認知度を向上するとともに、芦屋釜の里の観光施設としての付加価値の創出、他の観光資源とのネットワーク化などにより、魅力向上を図ります。また、鋳物師による鋳物の体験プログラムの創出など、鋳物師と連携した取り組みを推進します。</p>				<p>オンリーワンとしての芦屋釜の魅力や認知度を向上するとともに、芦屋釜の里の観光施設としての付加価値の創出、他の観光資源とのネットワーク化などにより、魅力向上を図ります。また、鋳物師による鋳物の体験プログラムの創出など、鋳物師と連携した取り組みを推進します。</p>					
芦屋釜の里魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値	芦屋釜の里魅力向上プロジェクト		KPI	基準値	目標値
①	<p>芦屋釜の里を茶の湯文化を体験できる施設として活用するとともに、観光資源として活用するため、集客の仕組みづくりや町内観光施設等と連携した回遊の仕組みづくり、外国人観光客の受入れ対応の充実に取り組みます。また、鋳物師と連携した体験プログラムの創出、お土産品の開発を推進します。</p> <p>芦屋釜の認知度向上と鋳物師の地場化を推進するため、復興の取り組みについて、情報発信に取り組みます。</p>	芦屋釜の里年間来場者数	18,153人 (平成30年度)	20,000人	①	<p>芦屋釜の里を観光資源として活用するため、集客の仕組みづくりや回遊の仕組みづくりに取り組みます。また、滞在時間向上にむけた取り組みや、鋳物師と連携した体験プログラムの創出、お土産品の開発を推進します。</p> <p>芦屋釜の認知度向上と鋳物師の地場化を推進するため、復興の取り組みについて、情報発信に取り組みます。</p> <p>芦屋釜の里の付加価値創出として、庭園などを利用した七五三や成人式、結婚式などの写真撮影場所としての提供など、様々な活用に取り組みます。</p>	芦屋釜の里年間来場者数	16,880人	19,400人

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略5 芦屋港レジャー港化				戦略5 芦屋港レジャー港化			
概要・目的		概要・目的					
現在福岡県が管理する産業港である芦屋港の用途を変更し、観光レジャーの要素をもつレジャー港として整備を推進するとともに、海浜公園など周辺の観光施設等とのネットワーク化などにより、芦屋港の有効活用と活性化による魅力向上を図ります。		現在福岡県が管理する産業港である芦屋港の用途を変更し、観光レジャーの要素をもつレジャー港としての整備を推進するとともに、海浜公園など周辺の観光施設等とのネットワーク化などにより、芦屋港の有効活用と活性化による魅力向上を図ります。					
芦屋港のレジャー港化推進	KPI	基準値	目標値	芦屋港のレジャー港化推進	KPI	基準値	目標値
<p>① 福岡県が管理する地方港湾芦屋港を、観光レジャー要素をもつ港の機能に変更し、周辺機能と一体的な空間形成を図ることで、本町の観光振興や地域経済の循環に寄与する拠点として、既存港湾施設の有効活用や必要な機能の整備、これに伴う人材育成や管理運営組織の形成を推進します。</p> <p>港の特性を活かし、ポートパークや、「釣り文化振興促進モデル港(国土交通省指定)」としての海釣り施設、漁協の近さを活かした水産物や豊富な農産物を活かした飲食・直売施設、年間を通じた賑わいづくりとして砂像の屋内展示を想定した全天候型施設をはじめ、既存港湾施設を活用した官民連携による商業施設整備や、緑地帯・砂浜の有効活用によるアクティビティの導入といった、他にない特徴的な空間を形成し、港を中心とした周辺地域に新しい人の流れを創出します。</p> <p>また、港は新たに海の玄関口としての活用が期待でき、広域観光の拠点としての役割を担うことを目指し、福岡県と連携し、他地域の海の駅との連携を図ります。</p> <p>さらに、空間形成に伴う管理運営体制組織の形成を図る必要があるため、地域に密着し持続可能な組織形成のため、外部人材を登用し、地域の人材育成・ネットワーク化を図るとともに、賑わい創出のため住民の機運醸成に取り組みます。</p>	芦屋港における年間来訪者数	0人 (令和元年度)	15万人	<p>① 港の管理者である福岡県と協議しながら、レジャー港としての有効かつ必要な機能への転換を推進します。</p> <p>構想づくりでは、現在の物流機能ではなく、観光の町としてふさわしいマリナー機能としてのプレジャーボートの係留施設や海釣り公園機能としての棧橋・生けす施設、観光客と地元住民との交流機能として、新鮮な鮮魚などを販売する直売所施設やその場で調理し提供できる飲食施設、イベント機能として朝市や祭りなどができる施設、マリンスポーツやビーチスポーツ大会時の駐車場施設など、北部九州地域における広域レジャーの拠点となるような整備方針が必要です。</p> <p>さらに、芦屋港周辺には、海水浴場やレジャープール、海浜公園、国民宿舎、砂像展、ビーチサッカー大会など注目されている施設やイベントが多くあり、それらと連携したにぎわい空間の創出ができる機能への展開を推進します。</p>	港湾計画の変更年度	—	平成31年度

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略6 芦屋流移住・定住の推進				戦略6 芦屋流移住・定住の推進					
概要・目的		情報発信プロジェクトと連携した移住・定住のための効果的な情報発信を推進するとともに、移住希望者に対する支援制度の実施や空家の有効活用などの環境整備を推進します。		概要・目的		情報発信プロジェクトと連携した移住・定住のための効果的な情報発信を推進するとともに、移住希望者とのマッチングや、町内での受入機運・空家の有効活用などの環境整備を推進します。			
移住・定住促進プロジェクト		KPI	基準値	目標値	移住・定住促進プロジェクト		KPI	基準値	目標値
①	移住・定住のための効果的な町の制度情報を発信し、「定住促進奨励金制度」を推進し、定住支援策を図ります。	助成事業による移住・定住者(累計)	161世帯(平成30年度)	340世帯	①	移住・定住のための効果的な情報発信を推進するとともに、移住希望者とのマッチングや町内の受入機運・環境の整備、定住後のフォローアップ体制について、調査・研究を行います。また、観光戦略と連携したお試し居住制度を創設し、芦屋町の魅力発見や住みやすさのPRを推進します。定住促進奨励金制度の推進を図るとともに、既存制度の拡充や新たな定住支援策について検討を進めます。	移住・定住者(定住促進奨励金等助成事業活用件数の累計)	12世帯	60世帯
空家有効活用プロジェクト		KPI	基準値	目標値	空家有効活用プロジェクト		KPI	基準値	目標値
②	空家バンクの情報発信による物件流通を促進するとともに「中古住宅解体後の新築住宅建築補助金制度」を推進し、空家の改善対策を図ります。	空家の有効活用件数(累計) (中古住宅解体後の新築住宅建築補助金交付件数と空家バンク売買契約及び賃貸契約件数)	20件(平成30年度)	40件	②	老朽化した賃貸住宅などを居住者ニーズにあたりリニューアルやリノベーションした場合に対する助成制度の創設を検討します。また、町営住宅(所得制限外住宅)のリノベーションと家賃の適正化について検討します。空家バンク制度創設により、積極的な情報発信や空家の有効活用を推進します。また、中古住宅解体後の新築住宅建築補助金制度を推進します。	空家の有効活用件数(累計)	12件	50件
東京圏からの移住推進		KPI	基準値	目標値					
③ 新規	地方創生推進交付金を活用した、「移住支援事業」を福岡県と連携して推進し、東京圏からの移住支援策を図ります。	助成事業による移住者(累計)	0世帯(令和元年度)	10世帯					

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

政策目標Ⅱ 芦屋ならではのしごとづくりを進める				政策目標Ⅱ 芦屋ならではのしごとづくりを進める					
基本目標		・空き店舗等活用補助金の新規交付件数(累計):[平成30年度]6件⇒[令和6年度]16件 ・農工商等連携事業数(累計):[平成30年度]10件⇒[令和6年度]20件		基本目標		・起業件数:[平成26年度]0件⇒[平成31年度]8件 ・農工商等連携事業数:[平成26年度]1事業⇒[平成31年度]5事業			
戦略1 海を活かした観光型ビジネスの創出				戦略1 海を活かした観光型ビジネスの創出					
概要・目的		響灘に面した本町の特徴を活かし、海や海岸線・砂浜などを活かしたビジネスの創出支援や店舗の誘致などの取り組みを推進します。		概要・目的		響灘に面した芦屋の特徴を活かし、海や海岸線・砂浜などを活かしたビジネスの創出支援や事業所の誘致などの取り組みを推進します。			
海が見える・海を活かした店舗の起業・誘致		KPI	基準値	目標値	海が見える・海を活かしたショップの起業・誘致		KPI	基準値	目標値
①	海が見える立地や、海の素材を活かした、小規模な店舗(飲食店や雑貨店など)の起業支援や誘致を図ります。併せて、マリンレジャーに関連した、店舗の誘致を図ります。	海岸線や海を望む立地に出店した店舗数(累計)	1件 (平成30年度)	3件	①	海が見える立地や、海の素材を活かした、小規模な店舗(飲食店や雑貨店など)の起業支援や誘致を図ります。また、ビーチサッカーやビーチバレーといった芦屋ならではの良質な砂を活かしたスポーツや、マリンレジャーに関連した、店舗の誘致を図ります。併せて海岸線の遊休地の有効活用を進めます。	海岸線や海を望む立地に出店したショップの数(累計)	0件	3件
水産物を活かしたビジネスの創出		KPI	基準値	目標値	水産物を活かしたビジネスの創出		KPI	基準値	目標値
②	豊富な水産物の直売の仕組みや、特産品開発、加工品開発、販路拡大などにより雇用の拡大や新たなビジネスチャンスの創出支援を図ります。	水産物加工品開発数(累計)	0件 (平成30年度)	3件	②	豊富な水産物の直売の仕組みや、特産品開発、加工品開発、販路拡大などにより雇用の拡大や新たなビジネスチャンスの創出支援を図ります。また、情報発信や観光要素を備えた直売所の整備について調査研究を図ります。	水産物販売創業企業数(累計)	0件	3件
戦略2 芦屋ならではの起業の支援				戦略2 芦屋ならではの起業の支援					
概要・目的		芦屋町の土地利用を活かし、設備投資の少ないクリエイターやIT関連などの起業・誘致、空店舗や空ビル・賃貸住宅や空家などを活用した企業誘致やサテライトオフィス誘致を推進することで、起業の支援を図ります。		概要・目的		芦屋町の土地利用を活かし、設備投資の少ないクリエイターやIT関連などの起業・誘致を促進します。また、空店舗や空ビル・賃貸住宅や空家などを活用した企業誘致やサテライトオフィス誘致を推進することで、起業の支援を図ります。			
IT・クリエイターの起業・誘致		KPI	基準値	目標値	IT・クリエイターの起業・誘致		KPI	基準値	目標値
①	設備投資が少なく個人でも起業できるIT関連やデザイナー・ライターなどクリエイターの起業支援や誘致を推進します。	起業件数(累計)	0件 (平成30年度)	3件	①	設備投資が少なく個人でも起業できるIT関連やデザイナー・ライターなどクリエイターの起業支援や誘致を推進します。	起業件数(累計)	0件	8件
		KPI	基準値	目標値	サテライトオフィス誘致		KPI	基準値	目標値
②に統合					②	活用できる施設の把握に努めるとともに、都市部にある企業のサテライトオフィス誘致を図ります。	サテライトオフィス誘致数(累計)	0件	3件

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

空店舗・空家を活かした起業・誘致				KPI	基準値	目標値	空店舗・空家を活かした起業・誘致				
②	空店舗や空ビル、賃貸住宅や空家の実態を把握するとともに、それぞれの環境に応じたりニューアルを支援することで、効果的な活用を図ります。また、空事務所等を活用したサテライトオフィスの誘致を図ります。	空き店舗等活用補助金の新規交付件数(累計)	6件 (平成30年度)	16件	③	空店舗や空ビル、賃貸住宅や空家の実態を把握するとともに、それぞれの環境に応じたりニューアルを支援することで、効果的な活用を図ります。	空店舗等活用件数(累計)	1件	9件		
戦略3 活力ある事業所づくり							戦略3 活力ある事業所づくり				
概要・目的		雇用の創出を図るため、速攻性のある取り組みとして、町内事業者がそれぞれの特長を活かしより活力あるものとなるよう、支援策の拡充を図ります。併せて、本町の産業特性を活かした雇用の増や新たな雇用の創出を、産業界と一体となり推進します。				概要・目的		雇用の創出を図るため、速効性のある取り組みとして、町内事業者がそれぞれの特徴を活かし、より活力あるものとなるよう、支援策の拡充を図ります。併せて、本町の産業特性を活かした雇用の増や新たな雇用の創出を、産業界と一体となり推進します。			
プレミアム商品券の発行				KPI	基準値	目標値	プレミアム商品券の発行				
①	商工会が発行する、町内の既存店舗で消費できるプレミアム付商品券の発行を支援することにより、町内の既存店舗利用を促進し、消費喚起と活力ある事業所づくりを推進します。	プレミアム付商品券年間発行総額	7,700万円 (令和元年度)	8,050万円	①	町内の既存店舗で消費できるプレミアム付商品券を発行し、町内の既存店舗利用を促進し、消費喚起と活力ある事業所づくりを推進します。	プレミアム付商品券年間発行総額	110,000千円	77,000千円		
町内事業者への支援				KPI	基準値	目標値	町内事業者への支援拡充				
②	現行の制度融資を推進し、町内事業者の事業拡大や設備投資などの支援を行います。	支援制度新規申請件数(累計)	56件 (平成30年度)	180件	②	町内事業者に対し、雇用の拡大につながる投資等に対する新たな支援策や既存の制度融資の見直しを図ります。また町内事業者の所得向上のための支援策を検討するとともに、産業界との連携による支援に取り組みます。	支援制度年間新規申請件数	17件	25件		
雇用の確保対策				KPI	基準値	目標値	雇用の確保対策				
③	企業誘致条例及び創業促進支援補助金を活用した企業誘致や起業の支援等により雇用の増加を図ります。	新規雇用者数(累計)	34人 (平成30年度)	44人	③	本町の産業特性を活かし、雇用の増や新規雇用の創出に対する支援を図るとともに、観光の推進による新規雇用の拡大を推進します。	新規雇用者数(累計)	0人	30人		

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略4 地産地消の推進				戦略4 地産地消の推進					
概要・目的		農業では水稲・青ねぎ・キャベツ・ほうれんそう・赤しそ・ねぎなどの生産が盛んで、赤しそやねぎはブランド化しています。また、水産業では、沿岸漁業が主でイカや鱈などの水揚げが多くあるほか、アワビなどの種苗放流、カサゴの稚魚放流など育てる漁業も推進しています。このように、豊かな自然から育まれる豊富な資源を地域で消費できる仕組みづくりを推進することで、新たな雇用や起業につなげていきます。		概要・目的		農業では水稲・青ねぎ・キャベツ・ほうれんそう・赤しそ・ねぎなどの生産が盛んで、赤しそやねぎはブランド化しています。また、水産業では、沿岸漁業が主でイカや鱈などの水揚げが多くあるほか、アワビなどの種苗放流、カサゴの稚魚放流などを育てる漁業も推進しています。このように、豊かな自然から育まれる豊富な資源を地域で消費できる仕組みづくりを推進することで、新たな雇用や起業につなげていきます。			
芦屋製品の消費拡大推進		KPI	基準値	目標値	芦屋製品の消費拡大推進		KPI	基準値	目標値
①	芦屋産品を町内で販売できる仕組み(空店舗の活用等)や、飲食店において芦屋産品が提供できる仕組みづくりを推進します。 また、ブランド認定制度を実施することにより付加価値を高めるとともに、町内外への販路拡大の取り組みなど関係機関と連携し推進します。	ブランド認定件数 (累計)	0件 (平成30年度)	25件	①	芦屋産品を町内で販売できる仕組み(空店舗の活用等)や、芦屋産品で食事ができる場の仕組みづくりを推進します。 また、付加価値を高めブランド化を図る新たな取り組みや、販路拡大の取り組みなどを関係機関と連携し推進します。	芦屋産品 提供店舗数 (累計)	-	25店舗
農工商等連携事業の推進		KPI	基準値	目標値	農工商等連携事業の推進		KPI	基準値	目標値
②	農林水産業と商業・工業等が産業間の壁を越えて連携し、一部の農漁業者と製造業で新商品の開発や販路開拓等を実施しています。今後は、新たな事業者のマッチング及び新商品の開発を支援します。	農工商等 連携事業数 (累計)	10件 (平成30年度)	20件	②	農林水産業と商業・工業等が産業間の壁を越えて連携し、新商品の開発や販路開拓等を支援する国の制度で、町内では、農業と製造業の一部で連携ができていますが、今後水産業との連携や連携事業者の拡充を図ります。	農工商等 連携事業数 (累計)	1件	5件
直売所等の整備推進		KPI	基準値	目標値	直売所等の整備推進		KPI	基準値	目標値
③	芦屋産品の直売機能をはじめ、地産地消の推進や観光情報の拠点としての機能、地域住民の生活機能向上のための小さな拠点機能等を併せもつ、直売所等の整備について検討します。	直売所の開業年度	-	令和5年度	③	芦屋産品の直売機能をはじめ、地産地消の推進や観光情報の拠点としての機能、地域住民の生活機能向上のための小さな拠点機能等を併せもつ、直売所等の整備について検討します。	直売所の整備年度	-	平成31年度

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

政策目標Ⅲ 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる				政策目標Ⅲ 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる					
基本目標		・合計特殊出生率：〔第1期総合戦略期間中の平均〕1.81 ⇒ 〔令和4年度〕1.83 ・新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助金新規交付件数(累計)〔平成30年度〕64件 ⇒ 〔令和6年度〕140件		基本目標		・出生率：〔平成24年度〕1.67 ⇒ 〔平成31年度〕1.72 ・出会いの場創出支援事業：〔平成26年度〕10件 ⇒ 〔平成31年度〕20件			
戦略1 結婚・出産の希望実現				戦略1 結婚・出産の希望実現					
概要・目的		若者の出会いの場を創出するとともに、妊娠期から出産、子育ての支援を充実します。また、子育てしやすい環境づくりにより、結婚・出産・子育ての希望を実現します。		概要・目的		若者の出会いの場を創出するとともに、妊娠期から出産、子育ての支援を充実します。また、子育てしやすい環境づくりにより、結婚・出産・子育ての希望を実現します。			
出会いの場の創出				出会いの場の創出					
①	婚活セミナーやイベント開催などを支援し、出会いの場を創出します。また、民間団体や航空自衛隊芦屋基地等との連携による若者の出会いの場づくりを推進します。	KPI 支援事業件数 (累計)	基準値 4件 (平成30年度)	目標値 12件	①	婚活セミナーやイベント開催、同窓会開催などを支援し、出会いの場を創出します。また、民間団体や航空自衛隊芦屋基地等との連携による若者の出会いの場づくりを推進します。	KPI 支援事業件数 (累計)	基準値 0件	目標値 20件
妊娠期から出産までの支援充実				妊娠期から出産までの支援充実					
②	不妊治療費助成制度や出産祝金交付事業を推進するとともに、妊娠期から出産までの相談や支援を図ります。	KPI 合計特殊出生率	基準値 1.81 (第1期総合戦略期間中の平均)	目標値 1.83 (令和4年度)	②	妊娠期から出産までの相談や支援をワンストップ化するとともに、不妊治療に対する助成制度の創設について検討を進めます。また、出産祝金制度を推進します。	KPI 合計特殊出生率	基準値 1.67 (24年度)	目標値 1.72
新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度の推進				新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度の推進					
③	「新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度」を推進し、新婚世帯や子育て世帯の移住や定着を図ります。	KPI 補助金 新規交付件数 (累計)	基準値 64件 (平成30年度)	目標値 140件	③	新婚世帯や子育て世帯の移住や定着を図る目的の「新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度」を推進します。	KPI 年間補助金 交付件数	基準値 0件	目標値 30件
戦略2 芦屋の子は芦屋で育てる教育環境づくり				戦略2 芦屋の子は芦屋で育てる教育環境づくり					
概要・目的		「芦屋の子は芦屋で育てる」をキーワードに、学校・家庭・地域が一体となった芦屋型教育の充実を図ります。		概要・目的		「芦屋の子は芦屋で育てる」をキーワードに、学校・家庭・地域が一体となった芦屋型教育の充実を図ります。			
さわやかプロジェクトの推進				さわやかプロジェクトの推進					
①	「芦屋の子は芦屋で育てる」をキーワードに、学校・家庭・地域が連携するとともに、幼稚園・保育所(園)・小学校・中学校の連携による一貫した教育を推進することで、豊かな心の育成と学力の向上、体力の向上を推進するとともに、シビックプライドの醸成と特別支援教育の充実を図ります。	KPI 教育の充実に関する 住民満足度の構成比率	基準値 72.8% (令和元年度)	目標値 75.0%	①	「芦屋の子は芦屋で育てる」をキーワードに、学校・家庭・地域が連携するとともに、幼稚園・保育所(園)・小学校・中学校の連携による一貫した教育を推進することで、豊かな心の育成と学力の向上、体力の向上を推進します。また、不登校対策指導員やスクールカウンセラーなどによるきめ細やかな指導と、特別支援教育の充実を推進します。	KPI 教育の充実に関する 住民満足度の構成比率	基準値 63.0%	目標値 67.0%

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略3 いきいき子育て支援				戦略3 いきいき子育て支援					
概要・目的		安心して子育てができる環境づくりを図るとともに、多様な子育て支援サービスの充実と総合的な展開を推進します。		概要・目的		安心して子育てができる環境づくりを図るとともに、多様な子育て支援サービスの充実と総合的な展開を推進します。			
子育て支援サービスの推進		KPI	基準値	目標値	多様な子育て支援サービスの充実と総合的な展開		KPI	基準値	目標値
①	子育て支援センター「たんぼぼ」の利便性を向上させるとともに、子育て短期支援事業や病児・病後児保育の利用を促進します。また、保育料の軽減や一時保育、障がい児保育などの保育サービスの充実を図ります。	子育て支援センター年間利用者数	9,023人 (平成30年度)	9,000人	①	子育て支援センター「たんぼぼ」の機能充実を図り、さらに利用しやすい環境づくりを推進します。また、子育て支援に関する相談や情報提供、多様な子育て支援サービスの提供など、子ども子育てのワンストップサービスを提供します。	子育て支援センター年間利用者数	9,000人	9,400人
①に統合		KPI	基準値	目標値	保育サービスの向上		KPI	基準値	目標値
①に統合					②	保育料の軽減や一時保育、障がい児保育など保育サービスの充実を図るとともに、病児・病後児保育の整備を検討します。また、大学との連携による保育サービスの充実や学童保育の充実に取り組みます。	一時保育年間延べ利用者数	423人	520人
①に統合		KPI	基準値	目標値	保育士確保対策		KPI	基準値	目標値
①に統合					③	大学との連携により、学生期から人材確保できる仕組みづくりを検討します。正規職員雇用拡大に対する運営事業者への助成制度などインセンティブ制度の創設を検討します。	保育士確保人数(累計)	0人	8人
通学費補助		KPI	基準値	目標値	バス通学補助		KPI	基準値	目標値
②	子育て世帯の経済的負担を軽減するため、小中学生や高校生等が公共交通機関を利用して通学する場合の通学用定期代を補助します。また、高校生等で公共交通機関を利用せずに通学する場合にも補助を行います。	教育の充実に関する住民満足度の構成比率	72.8% (令和元年度)	75.0%	④	子育て世帯への経済的負担軽減のため、小学生から高校生までのバス通学に対する定期券の購入補助制度を推進します。	通学補助年間利用者数	0人	352人
子どものあそび環境整備		KPI	基準値	目標値	子どものあそび環境整備		KPI	基準値	目標値
③	子育て世帯が利用しやすく、安心して子どもを遊ばせることのできる公園整備を、地域住民とともに計画し推進します。また、地域力による見守りや、高齢者と子どもの交流の場など多世代交流の場としての活用を推進します。	公園整備箇所数	0箇所 (平成30年度)	19箇所	⑤	子育て世帯が利用しやすく、安心して子どもを遊ばせることのできる公園整備を地域住民とともに計画し整備を推進します。また、地域力による見守りや、高齢者と子どもの交流の場など多世代交流の場としての活用を推進します。	街区公園整備箇所数	0箇所	16箇所

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

政策目標Ⅳ ずっと住みたい、時代にあった地域をつくる				政策目標Ⅳ ずっと住みたい、時代にあった地域をつくる					
基本目標		・芦屋タウンバス利用者数:[平成30年度]109,089人 ⇒ [令和6年度]120,000人 ・北九州市との連携事業数:[平成30年度]17件 ⇒ [令和6年度]17件		基本目標		・広域連携事業:[平成26年度]0件 ⇒ [平成31年度]25件 ・芦屋タウンバス利用者[平成26年度]90,361人 ⇒ [平成31年度]96,500人			
戦略1 交通ネットワークの充実				戦略1 交通ネットワークの充実					
概要・目的		住民の交通手段の確保や利便性を向上させるため、既存の公共交通の見直し・充実を図ります。また広域連携による公共交通のネットワーク化を検討します。		概要・目的		住民の交通手段の確保や利便性を向上させるため、既存の公共交通の見直し・充実を図ります。また広域連携による公共交通のネットワーク化を検討します。			
芦屋タウンバス事業の充実				芦屋タウンバス事業の充実					
	KPI	基準値	目標値		KPI	基準値	目標値		
①	芦屋町が運行する芦屋タウンバスについて、利用者ニーズに対応した運行体系に見直すとともに、車両の購入やバス停の整備を推進します。	芦屋タウンバス年間利用者数	109,089人 (平成30年度)	120,000人	①	芦屋町が運行する芦屋タウンバスについて、利用者ニーズに対応した運行体系に見直すとともに、車両の購入やバス停の整備を推進します。	芦屋タウンバス年間利用者数	90,361人	96,500人
広域連携による公共交通ネットワークの推進				広域連携による公共交通ネットワークの推進					
	KPI	基準値	目標値		KPI	基準値	目標値		
②	北九州市との連携により公共交通の維持・確保・充実を図ります。また、遠賀郡各町との連携による、公共交通のネットワーク化を検討します。	バスの1日運行便数(平日)	155便 (平成30年度)	155便	②	北九州市との連携により公共交通の維持・確保・充実を図ります。また、遠賀郡各町との連携による、公共交通のネットワーク化を検討します。	バスの1日運行便数(平日)	148便	153便
戦略2 みんなでつくるあしや・協働のまちづくり				戦略2 みんなでつくるあしや・協働のまちづくり					
概要・目的		「芦屋町住民参画まちづくり条例」にもとづき、町民と町との情報共有による協働のまちづくりを推進し、地域の皆さん一人ひとりの顔が見えるコミュニティ醸成を図ります。また、歴史や伝統文化、産業、自然など様々な魅力を町民が知り、誇りに思うとともに、郷土心を醸成し、地域への愛着と定着を図る取り組みを推進します。		概要・目的		「芦屋町住民参画まちづくり条例」にもとづき、町民と町との情報共有による協働のまちづくりを推進し、地域の皆さん一人ひとりの顔が見えるコミュニティ醸成を図ります。また、歴史や伝統文化・産業・自然など様々な魅力を町民が知り、誇りに思うとともに、郷土愛を醸成し、地域への愛着と定着を図る取り組みを推進します。			
協働のまちづくりの推進				協働のまちづくりの推進					
	KPI	基準値	目標値		KPI	基準値	目標値		
①	「芦屋町住民参画まちづくり条例」の基本理念のもと、まちづくりに対する関心を深めてもらうため、まちづくりの方向性やその実現に向けた具体的な取り組みなど、必要な情報を必要な方が受け取れるよう、情報発信や住民参画機会の提供に努めます。	住民説明会の開催回数(累計)	1回 (平成30年度)	6回	①	「住民参画まちづくり条例」の推進による協働のまちづくりを実現するため、自治区担当職員制度を活用した地域コミュニティの醸成や自治区のまちづくり計画策定など、地域コミュニティの核となる自治区の活性化を推進します。また、ボランティア活動センターの機能向上を図ります。	自治区担当職員制度による自治区まちづくり計画策定自治区数(累計)	0区	30区

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

シビックプライドの醸成				KPI	基準値	目標値	シビックプライドの醸成						
②	歴史や伝統文化・産業・自然など様々な魅力を町民が知り、誇りに思うとともに、郷土心を醸成し、地域への愛着と定着を図るため、「芦屋かるた」「町民むけ情報発信」「体験プログラム」など様々な取り組みを推進します。	シビックプライド醸成の取り組み事業件数(累計)	112件 (平成30年度)	260件	②	芦屋町の歴史や伝統文化・産業・自然など様々な魅力を町民が知り、誇りに思うとともに、郷土心を醸成し、地域への愛着と定着を図るため、「あしやカルタ」、「あしや検定」、「一人ひとつ自慢」などの取り組みや、「町民むけ情報発信」、「町民むけ体験プログラム」など様々な取り組みを推進します。	シビックプライド醸成の取り組み事業件数(累計)	0件	20件				
高齢者がいきいきと生活できる環境づくり				KPI	基準値	目標値	高齢者が生き生きと生活できる環境づくり						
③	高齢者が地域でいきいきと暮らせるよう、地域包括ケアシステムを深化・推進するために、身近な地域で集い、交流できる場として、すべての自治区で、地域交流サロン事業を推進し活動を支援します。	地域交流サロン事業年間実施箇所数	20箇所 (平成30年度)	30箇所	③	高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムを構築するとともに、介護予防の一環として、身近な地域で交流や相談ができる仕組みとして、すべての自治区で、サロン事業を推進します。	サロン事業年間実施箇所数	0箇所	30箇所				
安全・安心な地域づくり				KPI	基準値	目標値	安全・安心な地域づくり						
④	防犯パトロールなど、各種団体との連携による地域ぐるみの防犯活動を推進するとともに、防犯カメラの設置など、防犯環境の整備を推進します。 また、自主防災組織を中心とした住民の防災訓練参加を促し、防災知識の普及に努め、地域防災力向上を図ります。	防災訓練の年間実施回数	1回 (平成30年度)	2回	④	防犯パトロールなど、各種団体との連携による地域ぐるみの防犯活動を推進するとともに、防犯街灯のLED化や防犯カメラの設置など、防犯環境の整備を推進します。 また、地域住民で助け合う自主防災組織の充実・強化を図り、地域での防災訓練を実施することで、安全で安心な地域づくりを推進します。	自主防災組織による防災訓練年間実施件数	4回	29回				
戦略3 広域連携の推進							戦略3 広域連携の推進						
概要・目的		北九州市都市圏を構成する各市町や中核市である北九州市との広域連携を推進し、それぞれのメリットを活かした連携を図ることで、地域全体の振興を推進します。					概要・目的		北九州都市圏を構成する各市町や中核市である北九州市との広域連携を推進し、それぞれのメリットを活かした連携を図ることで、地域全体の振興を推進します。				
北九州市との連携中枢都市圏構想の推進				KPI	基準値	目標値	北九州市との連携中枢都市圏構想の推進						
①	連携中枢都市圏構想にもとづき、北九州市と連携協約を締結することで、生活関連サービスの共同実施や連携のメリットを活かした行政の推進を図ります。	北九州市との連携事業数	17件 (平成30年度)	17件	①	連携中枢都市圏構想にもとづき、北九州市と連携協約を締結することで、生活関連サービスの共同実施や連携のメリットを活かした行政の推進を図ります。	北九州市との連携事業数	0件	25件				
				KPI	基準値	目標値	遠賀・中間広域連携推進プロジェクトの推進						
削除							②	遠賀・中間の1市4町と福岡県の協働による、地域全体の魅力発信と地域振興を図るため、各種事業を推進します。	遠賀・中間広域連携プロジェクト連携事業数	3件	5件		

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表(案)

令和2年3月5日
地方創生推進委員会 資料③

戦略の実現に向けて		戦略の実現に向けて	
概要・目的	大学や様々な機関等との連携・ネットワークの強化を図ることにより、すべての政策目標や戦略の実現を効果的かつ効率的に推進していきます。	概要・目的	大学や様々な機関等との連携・ネットワークの強化を図ることにより、すべての政策目標や戦略の実現を効果的かつ効率的に推進していきます。
連携・ネットワーク強化		連携・ネットワーク強化	
①	行政内部はもちろん、関係機関や関係団体などの情報等の共有や連携・ネットワークの強化を図るとともに、仕組みづくりを推進します。	①	行政内部はもちろん、関係機関や関係団体などの情報等の共有や連携・ネットワークの強化を図るとともに、仕組みづくりを推進します。
大学との連携		大学との連携	
②	近隣にある大学と様々な分野で連携を行うことにより、大学の知見やノウハウ、学生の若いパワーを活かした事業の推進や町民との交流による地域づくりを推進します。	②	近隣にある大学と様々な分野で連携を行うことにより、大学の知見やノウハウ、学生の若いパワーを活かした事業の推進や町民との交流による地域づくりを推進します。